



西野 結鶴さん (17 歳)

— 経歴 —

松尾台小学校→清陵中学校→市立伊丹高等学校 (グローバル共創科)

直接空気回収技術を学びに、 たった二人でスイスへ



「最後のチャンス」と思い応募

私は高校のグローバル共創科で学び、海外留学への憧れがありました。今回の挑戦のきっかけは、学校で配られた兵庫県「ひょうご若者海外武者修行プロジェクト」(若者が海外で学ぶことを兵庫県が支援する事業)の案内でした。「高校2年生の今が、海外で学ぶ最後のチャンスかもしれない」。そんな思いで応募を決め、探究テーマに選んだのが「直接空気回収技術」です。

これは、地球温暖化の原因となる空气中的二酸化炭素を、機械で直接吸い取って回収する新しい技術です。調べていくうちに、スイスではこの技術の研究や実証が進んでいる一方、日本ではあまり知られていないことを知りました。「自分が大人になった時に役立つ技術だ」と感じ、本場スイスでの探究を決めました。

スイスで学び、猪名川町をPR

留学期間は約3週間。現地ではチューリッヒ工科大学を訪ね、直接空気回収技術の実証設備や模型を見学したほか、教授や学生との交流にも挑戦しました。もちろん、すべてが予定どおりに進んだわけではありません。現地ではドイツ語が多く使われ、専門的な内容を英語で伝えることにも苦労しましたが、時には翻訳機も使いながら、自分から積極的に話しかけました。

スイスでは複数の実証施設が各地に点在し、日本よりも研究や実用化への取り

組みが身近に感じられた一方、豊富な水力発電が技術を支える裏で、氷河の融解による水資源への影響という新たな課題があることも学びました。

また、このプロジェクトでは兵庫県のアンバサダーとして活動することが支援の要件だったため、ふるさと猪名川町の位置する場所や、マスコットキャラクターであるいなぼつ、特産品などを現地の人たちに発信しました。さらに、留学前に杉生農園で教わった手作りジャムをホームステイ先に振る舞いました。スイスのジャムより甘く驚かれましたが、後日、そのジャムが半分以上減っていたのを見て、嬉しくなりました。

みんなの支えでつかんだ合格

応募の準備から渡航まで、最も大きな支えとなったのは母でした。面接に付き添ってくれ、うまく答えられずに落ち込んだ時には、そばで励ましてくれました。学校の先生や先輩には、何度も面接の練習に付き合ってくださいました。英語での受け答えには苦労しましたが、周囲の皆さんの支えがあったからこそ合格でき、挑戦への一歩を踏み出すことができました。

経験を次の一歩へ

今回の経験を無駄にしないよう、これから環境分野の学びを続け、直接空気回収技術をはじめとする環境技術への理解をさらに深めていきたいと思っています。

